

学校を休んでいる子どもへの 夏休み中の対応について

40日以上長い休みが始まります。夏休みは、日頃、緊張感の高い子どもにとって、のびのび気楽に過ごせる期間で、開放感を持ち、比較的楽に人と会うことができるようになります。

このチャンスを
生かして

「信頼関係づくり」と「居場所づくり」
そして 2学期からの学校生活に **安心感** を

子どもとのかかわり例

家庭訪問で...

子どもと外に出かけてみます。
近くの公園や川原
テニス・釣り・デイキャンプ
体育館で屋内スポーツ

心を伝える

訪問しても会えない子どもには、気にかけているというメッセージを、はがきや手紙で伝えます。
暑中見舞い・残暑見舞い

登校のきっかけに

子どもが精神的に安定するこの時期に、積極的に声かけを行い、登校へのきっかけをつくります。
保健室・職員室・教室に誘う

誘い方をひと工夫

職員室や保健室などへの登校を呼びかけ、教職員との出会いの場をつくります。その子どもにかかわることのできる人といっしょに、工作や調理、裁縫などの活動を行います。
また、地域や学校で行われる行事に、いっしょに参加するよう誘ってみます。

2学期に向けて <子どもへ>

夏休みの後半に、気になる子どもたちを学校に誘い、昼食会やゲーム大会、夏の宿題の点検などをし、子どもたちが学校の雰囲気や環境に慣れ、安心して2学期のスタートがきれるようにします。

2学期に向けて② <教職員で>

教職員全員で子どもの情報を共有し、始業式を迎える準備をします。
子どもが教室に入れない時には、保健室や相談室へ別室登校する場合があります。柔軟な対応を考えておきます。